



令和4年(2022年)第6週 2022年2月7日(月)~2022年2月13日(日)

# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



国立感染症研究所「突発性発疹 2000~2020年」

## ●突発性発しん

生まれて初めての高熱は、この病気が多いようです。お母さんからもらった免疫力が薄れてきた頃、突然の高熱と解熱前後に赤い発疹が出るのが特徴です。

### ◆どんな病気？

・症状………ヒトヘルペスウイルス6型・7型による感染症で、乳幼児期に3日程度の高熱の後、解熱とともに発疹が出現します。急性期には軟便/下痢、大泉門の膨隆、眼瞼浮腫、リンパ節腫脹などを認め、また発症初期に口蓋垂(のどちんこ)の両側に斑状発赤がみられることもあります。熱が出はじめた頃に熱性けいれんを起こすことがあります。一般的に予後は良好です。まれに脳炎や脳症などの重篤な合併症を起こすこともあります。

・潜伏期間…10日程度

・感染経路…ヒトヘルペスウイルス属は一度感染すると生涯にわたって体内に潜伏しているため、ほとんどの人がウイルスを保有していると言われていています。唾液に含まれるウイルスが赤ちゃんの口や気道から入って感染するのが、主な感染経路と考えられています。

・流行期……季節性はありませんが、冬期に比べると夏期にやや多い傾向があります。

口の中の「斑状発赤」



### ◆かかったらどうすればいいの？

・特別な治療法はありませんので、対症療法が中心になります。感染力は弱いですが、発熱前後は感染力があります。

・熱が高いときは特に、水分をしっかりとらせて脱水にならないように気をつけましょう。発疹が出たあとも高熱が続いたり、ぐったりしているときは早めに医療機関を受診しましょう。

### ◆予防法は？

発熱前後の気道分泌物中にウイルスが含まれるため、飛沫、鼻汁、唾液等には感染性があると考えられます。通常は保護者、兄弟姉妹等の唾液等から感染しますが、免疫のない子どもが、感染した子どもの分泌物に接触した場合には、感染する可能性があります。日常的に手洗い等の一般的な感染症予防策を実施しましょう。子どもに高熱がある場合には、特に徹底して行ってください。解熱し発しんが出現して診断がつく頃にはウイルスの排出はなくなるため、罹患した子どもの登園のめやすは、「解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと」です。

期 間		2022年 5週		2022年 6週	
		1/31~2/6		2/7~2/13(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	23	1.44	26	1.63
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	2	0.13	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	1	0.06	0	0.00
感染性胃腸炎	注意 ➡	82	5.13	75	4.69
水痘(みずぼうそう)	➡	0	0.00	1	0.06
手足口病	➡	2	0.13	2	0.13
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	7	0.44	11	0.69
ヘルパンギーナ	➡	0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	1	0.20	0	0.00
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	1	0.20